

Guest

北京大学 学長
許 智宏氏

- 01 : 大学の新しいかたち
- 02 : 変わるものと、変えてはいけないもの
- 03 : 教養教育の意義
- 04 : 基礎研究のゆくえ

交流する「大学改革」

～ 中国と日本

淡青

[TANSEI]

東京大学広報誌

The University of Tokyo Magazine October, 2004 Vol.13

13

2004|10

「淡青」について

東京大学と京都大学(当時は東京帝国大学、京都帝国大学)が1920年に最初の対抗レガッタを瀬田川で行った際、抽選によって決まった色が「淡青(ライト・ブルー)」であり、本学の運動会をはじめスクール・カラーとして親しまれてきました。

淡青13号をお届けいたします。今回の特集では「東大病院」を取り上げました。東京大学はその活動のひとつとして社会との連携を重要なものととらえています。東大病院は社会と大学が最も密接に接する場所とも言えます。診療・教育・研究という種々の側面で、さまざまな活動が熱く行われている、国内最大の大学附属病院です。この東大病院のさまざまな側面を本特集を通じて感じていただければ幸いです。

また総長対談では北京大学の許 智宏学長と佐々木総長の対談を取り上げました。「大学改革」に関して、さまざまな観点から意見交換していただきました。

また本号より、新企画として東京大学に対する応援、叱咤激励のメッセージをいただく「東京大学へのメッセージ」という記事を設け、第一回のメッセージを東京大学名誉教授 石井紫郎先生より頂戴いたしました。本対外広報誌「淡青」の編集にはこれからも新しい工夫を加えていきたいと考えております。是非忌憚のないご意見やご提言をお寄せいただきたいと存じます。

広報委員会委員長 佐久間 一郎

社会の大きな流れの中で行われてきた北京大学における改革。一方、国立大学法人として新たな一步を踏み出した東京大学。それぞれの大学が取り組んでいるさまざまな新しい試み、今後の問題点などについて、北京大学・許学長をお招きして佐々木総長と対談していただきました。今、大学に求められる新しいかたちとは…

CONTENTS

【総長対談】交流する「大学改革」 02
～中国と日本

【特集】東京大学医学部附属病院 08
—大きな変革期を迎えた医療の現場—

東京大学へのメッセージ 21
石井紫郎 東京大学名誉教授

教育・研究の現場から 22
大学院経済学研究科・経済学部/宇宙線研究所

世界の中の東京大学 24
日中持続的発展・天津フォーラム

サイエンスへの招待 26
生物時計—時刻合わせ機構への分子アプローチ
東海地域に沈み込むプレートの姿

キャンパス散歩 28
外国人教師たちの銅像

インフォメーション 30

01

大学の新しいかたち

「佐々木」今、東京大学も変革の時期で大変ですが、北京大学でもさまざまな新しい試みをされているそうですね。許学長が一番熱心に取り組んでおられるのは、どの点でしょうか。

「許」中国では改革・開放の時代に入って以降、大変重要な改革が行われてきましたが、その中で最も大きなものが教育制度の改革で、経費についてまず行われました。これまでは、教育予算はすべて国家からおりてくるものですが、多様化が図られさまざまなところからくる形に変わりました。

この中で一番大きな改革は、大学が会社を設立するということです。この件に関しては社会にはさまざまな議論があつた中で、私の前任者があえて着手しました。「大学の科学技術を産業界にいかす」という建前でしたが、現実には大学が会社を運営して、そこから得られる財務効果を期待していたのです。しかし、実際にしばらくやってみますと、いろいろな問題が生じました。なにしろ大学の学長はあくまでも学長で経営者でもないのに、下に二〇ほどの会社を抱えることになって、一種の企業集団と化してしまつたのです。

そこで、教育部の方でもさらに改革を進めようと、北京大学と清華大学が大学企業の問題に関する実験校に位置づけられました。つまり、会社を株式会社化して大学とは

02

変わるものと、 変えてはいけないもの

切り離し、その株を大学が所有するという形で権利を維持する。そういう試験的なことが今行われています。このような経営体制で、われわれ教員側としても、どのように産業界や地方の政府機関と交渉して自分たちの利益を確保するか、という経験を積むことができました。

「許」しかし、そのうち中国の改革にもなつて大学も企業のあり方も大きく変わり、どんどん変化していく環境に適應できる能力を、どうやって学生につけさせるかが大きな問題になりました。

こうした中で、われわれが研究の水準と、社会よりも一歩先を行く体制をいかに維持するかということをめぐっては、大きな圧力があつましたし、そのための環境を維持・発展させることも重要な課題でした。この目的からしても、国際的な大学との交流は欠かせないと考え、努力をしてきたつもりです。

一番重要なのはやはり「人間」です。われわれがもっとも苦労したのは人材の問題で、どうやって質のよい研究者や指導者を北京大学に確保するかということでした。

かつては一度就職してしまえば退職まで、あるいは退職した後とも老後まで機関が面倒をみるというのがあたり



許 智 宏 Xu Zhihong

1942年生まれ。65年北京大学生物系植物学科卒業後、69年中国科学院上海植物生理研究所研究生課程(大学院に相当)修了。その後、同研究所にて、副研究員(助教相当)、研究員(教授相当)、副所長を歴任。91年2月~94年10月上海植物生理研究所長に就任、92年10月より中国科学院副院長を兼任。その後、99年12月北京大学校長に就任。研究領域は植物発生学、植物組織および細胞培養、原形質操作、植物遺伝形質転換、植物生命工学など

まえだったわけですが、現在では人事制度の流動性が高まっておりますので、一部の人は北京大学を離れていく場合もある。こうなると、いかに優秀な人材を大学に引き、また、彼らをいかに定着させるかという、人材の確保がさらに大事な点になります。

「佐々木」 東京大学でも、これまではほとんど政府から予算がきて、それにしたがって毎日研究や教育をするというシステムでした。しかし五、六年前からは、競争的資金を獲得することにより初めて研究ができるようになる体制にしたいに変わり、そうした資金の割合がどんどん大きくなってきています。

こうして研究活動が、国から直接くる以外の資金によっても支えられるようになって、だんだん大学の運営もかつてより複雑なものになってきました。そして二〇〇四年四月から法人化によって、さらに複雑になるという状況です。産業界との連携も、今までとは違ったスキームのつとつて、さまざまな形で動くようになるわけです。そうした変化の大きさをこの組織の中で消化できるかどうか、われわれにとってもこれからの大きな挑戦であると思っています。

しかし、大学という組織は本来研究と教育の機関であって、社会の他の組織が取って替わられるものではありません。最後にはやはり、優れた教員・研究者と学生とをいかに確保するかということに帰着するのではないかと私は思っています。ただ、それをどう実行するかについては、日本では今までよりも、大学自身が多くの裁量権といえますが、自由度とリソースを持たなければなりません。これをどう確保するかが、私たちの問題になっています。

東京大学としては、今まで国内的には安定してきた面があるのですが、これからはそういうわけにいかないということ、大変な緊張感を持ちながら、新しい挑戦へのプ

ロポーザルを出している最中です。この数年、日本は経済的にもさまざまな困難に見舞われ、今までの社会の仕組みがかつてのように機能しないということもあって、世間の人たちが「教育が悪い」「学校が悪い」「大学が悪い」と口にするようになり、なかなか難しい時期でもありました。しかし、ようやく社会の楽観的ムードが少し高まってきて、大学でもファカルティ・メンバーの新しい取り組みができています。そうしたメンバーのイニシアティブを通して、従来とはまた違う新しい次元で、北京大学とも教育・研究面での協力体制を作っていくことができれば、非常に嬉しいことだと思います。

03

教養教育の意義

「佐々木」 先ほど、学生の教育をいかに社会の変化に適応させていくかということを指摘されましたが、私もこれは大変に重要なことだと考えます。私どもの方から申しますと、今までの教育システムが、従来のディシプリン（専門領域）の縦割りの中に学生を囲い込むような形になっていました。これが学生の関心と教える側とのギャップを生んできたのではないかと私は考えました。

今、それを横に切り裂くような、新しい教育プログラムを編成を手がかりとして、もっと学生にたくさん刺激を与え、新しい可能性に目覚めてもらえるような取り組みを始めたところです。北京大学では具体的にどのよう



佐々木 毅 Sasaki Takeshi

1942年生まれ。65年東京大学法学部卒。68年から法学部助教授、73年法学博士、78年より同教授、90～92年評議員、98～2000年大学院法学政治学研究所長、2001年4月より第27代東京大学総長に就任

なことを行なっていくらっしゃるのでしょうか。

「許」北京大学でも、ここ何年かでいくつかの試みを行ってまいりました。中国の大学制度は、日本よりも縦割りで固定化されたもので、かつては大学に入学してしまえば、学部よりもっと細かい学科の枠内に教育がとどまってしまうという制度でした。

それを大きく改革して、学生を募集する段階で「系」に分けることはせず、学部教育の基礎の段階でも大きな単位で括っておいて、その後三、四年生になってから専門的な内容を学ぶというようになっていきます。また、文系の学生にも理工系の教科を受講させ、理系の学生にも人文科学・社会科学の科目を受講させるという改革もいたしました。

中国では、全体で一気に改革を進めるというよりは、一歩一歩改革を進めるというやり方を取っていき、一部に実験的なシステムをつくるということをしています。その一つが北京大学で始まった、かつての学長、蔡元培（一九一六～二七年、および一九二九～三〇年次学長）の名前を冠したプロジェクトです。これは一年生の時に一〇〇人の実験クラスを作って、これを文系・理系に分け、より広い範囲で勉強をさせたいうえで、三年生の段階で自由に専門分野を選ばせ勉強をさせるようにする。その第一期生が今年卒業して、これからこの試みの総括をすることになります。今のところ学生自身・父兄・社会・他大学からの評判は非常に良いものです。

これについて、私は実は少し心配をしていました。もともとアジアの学生は非常に努力をしますけれども、それはある一定の枠の中でのことではないかと。それを自由選択にし、自分の興味だけでやらせて大丈夫なのだろうか。しかし、学生に広く自由に選ばせることによって、社会の変化への適応能力を身につけることができます

し、学生自身の向上心も鍛えられると、今はそう思っています。

「佐々木」大変興味深いお話ありがとうございます。私どもの大学も、一、二年次は教養課程で幅広く勉強させ、三、四年生になったところで専門性のあるところに投下していくこのシステムについて、再来年の入学者からはさらにいろいろな可能性を与えようと考えているところです。

教育の問題は、一つの決め手があつて、望んだ結果がでてくるという一義的な関係が必ずしもはつきりしない、難しいところがあるのですが、しかし、試みをするこゝによって思いがけない成果というものが見えてくることもある。それを考えることが重要だと思っています。

今紹介してくださった許学長の試みは大変興味深く、中国での、とくに北京大学のその試みが高い評価を得ているそうですので、是非アジア各国の大学をはじめ、私どもの大学にもご教示いただけることを楽しみにしています。

04

基礎研究のゆくえ

「佐々木」許学長は研究機関で長くいらしたとのことですが、研究の新しいエネルギーを引き出すために何をすべきか、大学ではどうされてきたのか、という点につい



2004年3月26日（金）に行われた本学卒業式で来賓として出席、挨拶を述べられる許学長



てはどのようなお考えをお持ちですか。

「許」東京大学も北京大学も同じ研究系の大学ですので、基礎研究の維持について、同じような問題を抱えているのではないかと思います。大学には大学独自の文化的な背景というものがありますし、大学の教員はより自由な環境で研究ができるということがあります。もちろん、法人化がなされれば、中国はそれを先行したわけですが、産業界との結びつきが強くなります。そうすると基礎研究に対する影響が心配になってきます。ここで大事になってくるのは、アメリカのイェール大学にしてもハーバード大学にしても、基礎研究を大切に、非常に高い水準を維持しているわけですから、学長がバランスをいかにとっていくか、そういった指導力だと思います。

企業と結びつくと、資金面の問題からして、どうしても

基礎研究を重視することができなくなりがちです。さらに国や産業界からの資金にも限界がある。したがって、基礎研究を重視して、それに携わる人たちが充分に力を発揮できる場を維持できるような、大学の指導者のバランス感覚が重要になるというのが私の考えです。

「佐々木」許学長が今述べられたことについては、私たちのファカルティ・メンバーも喜んで聞きますし、私も同感です。とくに基礎研究については、大学という組織の本質に関わるものですから、今後一層育て、かつ、活性化していきたいものだと考えます。そういう点についても、また意見を交換する機会があれば嬉しく思います。本日は、誠にありがとうございました。

(二〇〇四年三月二五日 東京大学総長室にて)

【北京大学の概要】

北京大学は、1898年に創設された中国では初めての国立総合大学です。

人文学部、社会科学学部、理学部、情報と工学部、医学部の5つの学部が設立されており、30の学院と12の系を有しています。2002年10月時点で、学部学生14,212人、修士課程学生8,119人と博士課程学

生3,956人が在学し、専任教員数は4,574人(そのうち、教授1,188人、助教授1,503人、中国科学院院士51人、工程院院士8人)で、国家重点実験室、9つの教育部重点実験室、8つの衛生部重点実験室、2つの国家工程研究センター、6つの付属病院、10ヶ所の教学病院を有しています。